

Summer to Winter

A Sense of Europe, from Finland



北欧フィンランドから、今年も「MINOR」の新艇がやってきた。バルト海、ボスニア湾、フィンランド湾と、フィヨルドに刻まれた長い海岸線をもつ、欧州大陸最北の国フィンランド。国土のすべてが北緯 60 度以上という厳しい環境ながら、海とボート&ヨットを愛してやまない国民性は、小さくて快適なオールシーズンボートという独自のカテゴリーを発展させた。ワークボートのスタイルに、荒れた海を渡る凌波性と居心地の良いキャビンを実現させた「Offshore 28」。北欧スタンダードとも言うべき、サイズ以上の品質とコンフォートを試した。

text: Shoichi Usami

photo: Kai Yukawa

special thanks: OKAZAKI YACHTS

<http://okazaki.yachts.co.jp>

MINOR Offshore 28

クラシックで、走りと居心地のいいオールシーズンボート この28フィートには、サイズと価格以上の価値が確かにある

横浜ベイサイドマリーナのビジターバースに、2艇の「MINOR (ミノア)」が並んでいた。手前に今回の取材艇「Offshore 28」、後ろは質実剛健そのものの「27 WR」。「28」は、つい先ほどヤードから降ろしたばかり。ダークブルーのハルが柔らかな午後の日差しに輝いている。30フィートに満たない小さめのサイズに、角張ったキャビン。上部が前傾したフロントウィンドウが、独特の存在感を醸し出す。派手さや威圧感とは無縁の、しかし潮気を感じさせるワークボートスタイル。その誰かと競うのではなく、自分のペースでのびのびと生きることを応援するような、凛とした佇まいだ。こういうボートも珍しい。

一見無骨なスタイルだが、四角いキャビンのアタマに付けられた3連サーチライトが、この艇に豊かな表情を与えている。重厚感のあるハルに、丁寧なパイプワーク。アプローチはスターンのスィミングプラットフォームからで、片開きのゲートが女性や子供にも優しい。

デッキはフラットだが、キャビン中ほどからバウにかけてせり上がり、Vバースの天井高を稼いでいる。アフトデッキ右舷には、

専用ローラー付きのアンカー。エンジンはこのデッキ下で、デッキ全体が開くのでメンテナンス性は非常に良い。また、スィミングプラットフォームのチークデッキを上げれば、ドライブにも簡単にアクセスできる。スターンを除くアフトデッキの3方には、チーク貼りの小さなベンチ。キャビン後端両サイド、サイドデッキ上縁にはきちんとハンドレール。当たり前なのだが、あるべきモノが、あるべきところにある。

キャビンへは両サイドのスライドドアから。いかにも断熱性の高そうな厚めのドア。内側の枠には大きな木製のロックがあり、全閉のほか、少しだけスリットを開けておくことも可能だ。内部は、チークウッドを適度に配したいかにも居心地の良さそうなキャビン。昨年取材した「Offshore 25」に比べ格段に広く、2脚のシート後方に、コの字形のソファとテーブルが収まる。乾いたライトブラウンのスエードが品の良さを感じさせ、壁の内張りはクロス。サイドウィンドウははめ殺しだが、後ろはスライド式と、使い分けが上手い。

左舷前側にはチークボードの下にミニキッチン。ここで調理と



北の海を走破するために、熟成を重ねた船体。重厚なディープVハルが、質の高い走りを実現する。感じるのは、28フィートとは思えない、確かな安心感。

Check on! YouTube
この取材艇のオリジナルムービーがYouTubeで見れる！
PerfectBOAT magazine TVで今すぐチェック！！
PerfectBOAT magazine TV
<http://www.youtube.com/PerfectBOATmagazine>



まではいかないだろうが、家で作ってきた物を温めることは十分できる。スライディングルーフをフルオープンすると開放感は抜群で、ルーフのハンドルがストッパーになっており、ねじるだけで緩み、実にシンプルで良い。

一段降りたVバースは、176cmの筆者が余裕で立てる天井高。この広さは、外観からは想像できない、意外な驚きだった。この28フィートには、さらにアフトのソファ下にもバースがある。こちらはさすがに立てはしない。ちょっとかがむが、この造りでは十分な高さ。子供部屋には最高だろう。

まるで家のソファを小型にしたような、座り心地のいいドライ

バースシートに収まる。目の前には電子航海計器のディスプレイとオートパイロット。回転計と電圧&水温系は、頭上のチークボード上だ。ステアリングのチルトは3段階調節、しかもコンソールボックス全体が動くという仕組み。左端のロックノブはグローブをはめた手でも間違いがなく、離着岸の際、非常に使いやすい。

桟橋を離れ、風もない静かな横浜の海へ。パワーソースは、VOLVO D4、260馬力のシングル。まさに慣らしの最中であり、今回は最高3,000rpmまでだ。このサイズには十分なパワーだが、望むならシングルで370馬力、ツインなら220馬力までもチョイスは可能。今回のシートライアルでは、2,300回転 12ノット、2,600



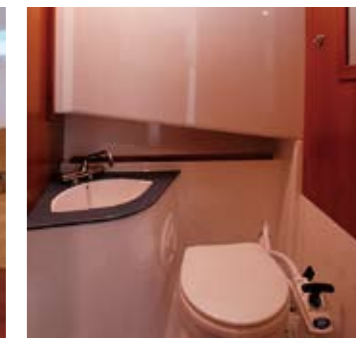
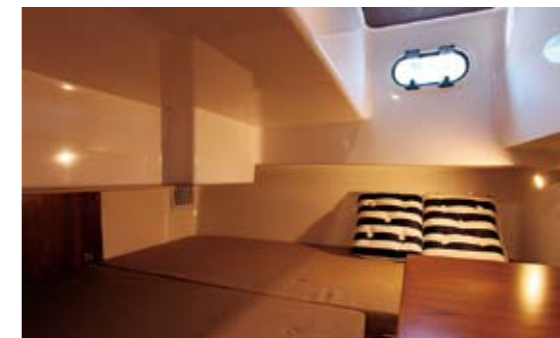
波当たりは、28フィートというサイズを感じさせないほど柔らかく、スロットルオフからの立ち上がり加速も十分。スターンドライブゆえにターンの回頭性も素直で、自然な内傾角で切れ込む。不穏な挙動を感じることは全くない。



回転 18ノット、2,800回転 20ノット、そして3,000回転では22.8ノットを記録した。カタログ値によれば、エンジンによりMaxスピードは33～41ノット。このスタイルには、十分過ぎる速さだ。気になる燃費も、本国データによれば、2,600回転 18.6ノットで、毎時28リッター (VOLVO D4-260) である。

今回のシートライアルは、穏やかな好天に恵まれた。寒さの質

はまったく違うが、フィンランドの人が冬、海に出るのは、きっとこんな天気の日なのだろう。冷たく澄んだ冬の空気のなかへ「MINOR Offshore 28」を繰り出すと、見慣れた横浜の海が、別の風景に感じられた。1967年創業と、長い歴史を誇る「MINOR」。コンフォートな「オールシーズンボート」。「MINOR」の目指すボートは、アメリカとも、地中海ともあきらかに違う、いわば北欧スタンダードなのだと感じられた。PB.



明るく、非常に視界の広い、快適なキャビン。ステアリングボックス全体が3段階のチルト機能を備え、離着岸時もラクだ。スエード素材の選び方や配色、チークウッドの造形に、船造りの文化の違いを感じる。キッチンは簡単なものだが、全体に、あるべきモノがあるべきところにあり、しかも使いやすい。Vバーズは176cmの筆者が立っても十分なゆとりがあり、28フィートにして2バーズという贅沢さ。エンジンやドライブのメンテナンス性など、テクニカル面も優秀。

SPECIFICATIONS . . . MINOR Offshore 28

- 全長 8.80 m
- 全幅 2.98 m
- 喫水 1.00 m
- 重量 4.2 ton
- 燃料タンク 375 L
- 清水タンク 100 L
- エンジン VOLVO D4
- 最高出力 260 HP
- 本体価格 21,603,000 円 (税別)

問い合わせ先 オカザキヨット
TEL: 横浜 045-770-0502、西宮 0798-32-0202
<http://okazaki.yachts.co.jp>

